

もの言う牧師のエッセー 第26話

「尖閣諸島購入」

東京都の石原慎太郎知事は4月16日ワシントン市内のシンクタンクで講演し、「日本人が日本の国土を守るため、東京都が尖閣諸島を購入することにした」と述べ世間を驚かせた。

尖閣諸島は魚釣島、久場島、大正島、北小島、南小島の5つの島と沖の北岩、沖の南岩、飛瀬岩の3つの岩礁からなる石垣島北方約130km-150kmにある島嶼郡である。従って問題となるのは“島”である5島だが、大正島は財務省が所有しており、久場島は1976年6月以降使用されていないものの在日米軍の射撃場になっているため、残り3つの島である魚釣島、北小島、南小島を推定15億円程度で購入することになる。

もともとの海域に関しては、1953年1月8日付けの中国共産党中央委員会の機関紙人民日報においてさえ「尖閣諸島は琉球群島に含まれる」と記述されていた。が、なぜ最近一連の騒動に発展したかと言え、1970年に国連が行った海洋調査で推定1,095億バレルという、イラクの埋蔵量に匹敵する大量の石油埋蔵量の可能性が報告された結果、台湾と中国が領有権を主張し始めたからである。

一方で外務省は2010年に起こった海上保安庁巡視船への中国漁船による衝突事件を始め“慎重姿勢”を崩さない。そこで業を煮やした石原氏の“買取宣言”となったのであるが、ここで神の言葉、

「あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。」

だから、自分の体で神の栄光を現しなさい。」1コリント人への手紙6章20節：共同訳

を思い出した。もともと神が造った人類を、罪から救う為わざわざ神がキリストという犠牲の代価を払って“買い取る”という仰天プランがゴスペルだからだ。そして我々は晴れて“神の領土”となったのだ。この神に感謝しよう。

2012-5-14

